

# カラツ沢

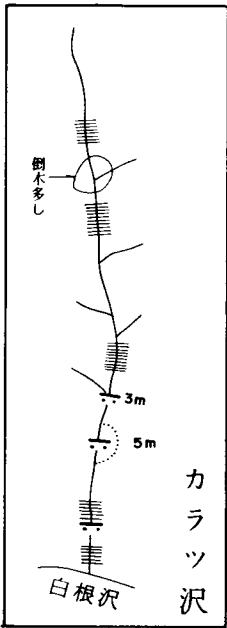
一九八四年七月一五日

Sh

白根沢にかかる橋を渡った所に車を置き、ワラジを着け白根沢を遡る。白根沢の沢幅は広く、ナメも美しいが、クモの巣には閉口する。背の一番高い大西さんを先頭にさせて、クモの巣払いをしてもらう。歩き初めてから約一時間、目的のカラツ沢の出口に着く。一休みしてから遡行開始。

白根沢の続きで、ナメは続くが、沢幅は狭い。一〇分程進むと五箇の滝が行手を阻む。直瀑で、どうも直登

できそうもないので、右側を捲く。が、落口の両端が切り立っているため、アップザイレンで降りる。この先一箇の小滝がある。ここを越える時にハブニング。大西さんが登った直後、「ガラガラ」と石が落ちてきた。次の僕にあやうく当りそうだった。カモシカが落としてみたんだ。



温帯の代表的な樹木⑤  
クヌギもコナラ同様に、福島市周辺に雑木林を構成する主要な樹種の一つである。樹皮はコナラよりちよつと黒っぽくて硬く不規則な裂けがある。▼葉はクリの葉とそっくりであるが、クリは葉がギザギザの先まで緑になっているのに、クヌギは葉の先に葉緑体がないので、白っぽくなっている。▼ドングリも球形であるが、長い毛の生えたはかまに、半分以上包まれている。▼材の利用も、コナラとよく似ている。シイタケ原木としての利用も多いが、樹皮が硬いので、喜ばれない。(大西)

この後は平凡な沢歩きで、所々に倒木があり、苦勞する。

しばらくすると水もなくなる。尾根を越えて松峯沢に入ることを考え、一一時一〇分、遡行を打ち切つて溜

## 松峯沢

一九八四年七月一五日

れたスラブ状の枝沢に取り付く。

(記・全)

「タイム」 出合(一〇:二〇)↓遡行

終了(一一:二〇)

た。

ここを抜けると、今度は沢が伏流になつていて、石の上を歩くだけになる。伏流が終わつた所はもう白根沢との出合であつた。はずれの沢であつた。

(記・)

「タイム」 下降開始(一一:五五)↓

白根沢出合(一二:四五)

一一時五〇分、沢に降りる。降り

た地点より五〇分程度上流に行くくと、水量比一対一のはっきりした二俣があつた。

この沢も相変わらずナメの沢かと思つたが、ナメのあつたのは最初のうちだけで、あとは小滝が二、三あるのみの平凡な沢であつた。

途中昼食にするが、食べ始めたたん雨が降つてきた。誰かが言った。

「大西さんと一緒じゃ仕方ない。」

楽しいはずの昼食も早々に切り上げ、先を急ぐことにする。

少し歩くと、倒木群がある。朽ち

かけていて、体重のある人は、枝に乗るたびに「バキッ」と枝を折つてゐる。かなり長く続いたように感じ

